

## 第6回 精神障がいのある親とその子どもの支援に関する学習会

中村ユキさんの漫画「わが家の母はビョーキです」が発売され11年。子どもの存在が少しずつ着目されるようになってきました。これには、それまで知られていなかった子どもの生活状況が子どもの語りによって知られるようになってきたという背景があると思います。親子の生活状況が認知されることで、支援が求めやすくなるなど社会が変わる可能性に繋がるとも考えます。

こうした状況の中、子どもの立場の方が発信される機会も増えてきました。私（土田）自身も、研修会等で精神障がいのある親御さんとの生活体験を話してもらえないかと依頼してきましたのですが、その時にお話しして下さる子の立場の方に対して、また当事者である親御さんに対して、倫理的な課題をきちんと配慮できていたのか？と考えると、いささか疑問が残ります。この課題に対して疑問を持ち、学会等で疑問を投げかけてこられた夏苺郁子先生から問題提起していただき、子どもの方が発信する機会が増えている今、倫理面でどんな課題があるのか、それをクリアするためにはどう考えていけばよいのか、皆さんと整理する機会になればと考えています。

日 時：2020年5月24日（日）13:00～16:30

場 所：オルバーズビル 4階 貸会議室（名古屋市中村区名駅南1丁目19-27）

変更になりました

参加対象：精神障がいのある親とその子どもの生活や支援について考えたいと思っている方

参加費：500円（ブレイクタイムのお茶代）

参加申し込み：5月16日（土）までに、①参加者氏名、②所属、③職種（立場）、④連絡先を下記のメールアドレスにご連絡ください。受付完了のメールを送らせていただきます。

\* 取り組み案内など参加者に情報発信したい内容（チラシ等）がありましたら、各自・各機関で持参していただくようお願いいたします。

プログラム

12:30～	受付
13:00～15:30	問題提起とディスカッション 「精神障がいのある親との暮らしを子どもが発信する場合の倫理的課題」 やきつべの径 診療所 医師 夏苺 郁子 先生  ディスカッション
15:30～15:45	小休憩（交流）
15:45～16:30	各機関の情報伝達 と 次年度の予定

主催：親&子どものサポートを考える会

後援：特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構（コンボ）  
公益社団法人 全国精神保健福祉会（みんなねっと）  
鈴鹿医療科学大学

申し込み&：鈴鹿医療科学大学 看護学部 土田幸子

問い合わせ sachiko@suzuka-u.ac.jp

ご参加、お待ちしております



